

まちの史跡めぐり

200

町文化財専門委員 石龍 豊美

守母神社と黒殿神社(須恵町・粕屋町)

守母神社を訪ねてみました。須恵東中学校と道路をはさんで向かい合う位置に守母神社があります。須恵町から篠栗町に抜ける切通しを進んで行くと、左側に分岐して下る道があり、駐車場が整備されています。駐車場には昭和の森公園案内図(写真1)



写真1

と「町指定無形民俗文化財 守母神社の伝説」の説明板(写真2)が立っています。守母神社をはさんで二つのため池があつて、西側に大谷池、東側に一段高いのが守母池です。二つの鳥居を抜けた先に覆屋(かぶせ)で守られた祠があり、「育児・夜泣き止めの神様」守母様と書かれた石柱の上に乳児を抱いた女性の座像(写真3)が置かれています。守母とは昔の武家の乳母(うぶ)養育係の意味です。その後ろには奉納された人形がびっしりと詰まっています。



写真2



写真3

乳母、慈照天照神尼、守母大菩薩を祀る。」と書かれています。高鳥居城は岳城山にあった城で、室町・戦国時代、山口県の大内氏から派遣された杉氏が城主として守っていました。佐谷の一人の女性が乳母としてその若様を預かっていましたが、天文20年(1551)高鳥居城は落城し、乳母は若様と城を落ち延びます。ところが、この場所までたどりついて岩陰に隠れていた所、若様が泣き出したことで敵に発見され、共に討たれてしまいました。乳母は子どもの夜泣きを止めると言い残して絶命したのです。それが守母様の伝説です。祭礼は4月第3日曜に行われていて、子どもの成長を願って親子連れが参拝します。

写真4は覆屋の前に立つ狛犬(こまいぬ)と、その後ろの岩です。岩自体が古来、信仰の対象であってもおかしくない風景で、元々この



写真4



写真5

付近は聖なる地だったのでないか、とも思われます。周辺には古墳も散在しています。岩を抱えるように古木が生えていました(写真5)。

関連して粕屋町の黒殿神社も紹介しておきましょう。こちら



写真6



写真7



写真8



写真9

も杉氏の姫君の霊を祀っています(写真6)。ここにも説明板があり、「高鳥居城(須恵町植木)があった時代、大隈の丸山は、杉正忠重並の軍の屯所でありました」。丸山城は高鳥居城を守るための出先の城だったという意味です。天正14(1586)年に落城した際、丸山にいた姫君が家

臣に首を切らせて亡くなりました。その首が落ちた先に神社を作って霊を慰めたということですから。県道35号線、門松交差点の先にJA粕屋と粕屋警察署があり、その西側にこんもりとしてあるのが丸山です(写真7)。黒殿神社はJA粕屋と丸山の間、山の麓にあります。

陰にかくれた禪師 五、目をさました若殿は泣き出してしまふ 六、敵に立ちむかい、命を落とすとしてしまふ 七、二世の泣く子たちの乳母になり泣き声を止める」と言い伝わるそれが守母神社の由来です。

と、書かれています。(くれぐれも脇見運転にならないようご注意ください。)

- 一、高鳥居城の殿さまと幼いむすこさん
- 二、そのむすこさんの教育をまかされた禪師(石瀧注禪尼のこゝ)...
- 三、戦国時代の須恵村にも戦の渦がやってくる(丸山)...
- 四、ねむった若殿を抱いて岩



写真10